
バカとテストと召喚獣を振り返ろう！！

いーみん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣を振り返ろう！！

【Nコード】

N3609H

【作者名】

いーみん

【あらすじ】

あー、いーみんです。はじめまして。今回は友人にオリキャラ追加で書いてと言われて書き始めました。まあ改悪版です。みてください。基本的に小説の写しです。

第一巻 プロローグ

（これが難しいと噂の振り分け試験か．．．．）

カリカリカリ．．． カリカリ カリカリ カリカリ．．． カッ
（確かに難しいけど問題ない．．この程度なら）

（十問に一問は解ける！）

『クラス振り分け試験』 当日の朝――

「よし明久テスト前の小手調べだ！えーと『三権分立』は『司法』と『立法』ともう一つは何で成り立つか？」

「ふ．．．あまり僕を見くびらないでくれよ雄二．．．二つまでならは絞れる」

「二つ．．．？ほう」

「『憲法』か『漢方』のどちらかだったはず．．．」

「．．．『行政』だ」

「あ、それじゃウチからも！」

「では基礎問題！『 CH_3COOH 』とは何でしょう？」

．．．．．

．．．．

タラッ．．．プイッ

「吉井？」

「．．．．．英語苦手なんだ」

「え？これ英語じゃなくて科学――」

「じゃあ僕こっちだから！」

「ちよつと吉井！アンタ相当ヤバイんじゃない？」

で。戻る

カリカリ カリカリ・・・ カリカリ

(二十点は堅いな)

ふらっ カッ ガタン

「姫路さんッ!」

ざわ ざわ ざわ・・・

「試験途中での退席は——」

教師は無慈悲に言う・・・

「『無得点』扱いとなるがそれでいいかね?」

「は・・・」

「ちょ、ちよつと先生! 具合が悪くなつて退席するだけでそれは酷いじゃないですか!」

「・・・ねえ」

「ん?なんだ?」

「・・・さつき雄二が話していた、大化の改新っていつのこと?」

「三年生にもなつて、まだそんな事も知らないのか? 翔子は馬鹿だなあ」

「・・・まだ習つてない。雄二の頭が良すぎるだけ」

「覚え方は簡単だぞ? 『無事故の改新』で覚えるんだ」

「・・・無事故?」

「忘れるなよ? 大化の改新は無事故で起きたから——」
「うん」

「——625年だからな」

「・・・わかった。きちんと覚えた」

「よし。忘れるなよ」

「・・・大丈夫。絶対に忘れない」

バカテスト 科学

『第一問』

問 以下の問いに答えなさい。

『調理の為に火にかける鍋を作成する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく反応する為危険であるという点。合金の例・・・ジュラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っかけ問題なのですが、姫路さんは引っかけありませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点・・・ガス代を払っていなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

『合金の例・・・未来合金（↑すごく強い）』

教師のコメント

すごく強いと言われても。

新庄涼の答え

『合金の例・・・鉄 と見せかけて、鋼』

教師のコメント

やっぱり引っ掛かっている人はい・・・フェイントは必要ありません。

僕らが文月学園に入学してから二度目の春が訪れた。

校舎へと続く坂道の両脇には新入生を迎える為の桜が咲き誇っている。別に花をめどるほど雅な人間ではないけれど、その眺めには一瞬目を奪われる。

でも、それは一瞬のこと。

今僕の頭にあるのは春の風物詩ではあるけれども、桜のことじゃない。

僕の頭は今年一年を共に戦い抜いていく戦友と教室——要するに新しいクラスのこと一杯になっていた。

「吉井、遅刻だぞ」

玄関の前でドスのきいた声に呼び止められる。声のした方を見ると、そこには浅黒い肌をした短髪のいかにもスポーツマン然とした男が立っていた。

「あ、鉄じ——じゃなくて、西村先生。おはようございます」

軽く頭を下げて挨拶をする。なにせ相手は生活指導の鬼、西村教諭だ。目をつけられるとロクな目に遭わない。

「今、鉄人って言わなかったか？」

「ははっ。気のせいですよ」

「ん、そうか？」

ふう、ヤバかった。危うく普通に『鉄人』って呼ぶところだった。ちなみに鉄人というのは生徒の間での西村先生の渾名で。その由来は先生の趣味であるトライアスロンだ。真冬でも半袖でいるあたりも理由のひとつだけ。

「それにしても、普通に『おはようございます』じゃないだろうが」
「あ、すいません。えーっと——今日も肌が黒いですね」
「……お前には遅刻の謝罪」よりも俺の肌の色の方が重要な
のか？」

「そつちでしたか。すいません」

「まったくお前というヤツは……いくら罰を与えても全然懲
りないな」

溜息混じりに先生がつぶやく。こう言われると、なんだか僕が遅
刻常習犯のように聞こえてしまう。

「先生。僕、遅刻はあまりしてないですよ？」

西村先生は去年僕のクラス担任だったから、僕があまり遅刻をし
なかったことは知っているはずだ。

「遅刻は、な。ほら、受け取れ」

先生が箱から封筒を取り出し、僕に差し出してくる。宛て名の欄
には『吉井明久』と、大きく僕の名前が書いてあった。

「あ、どーもです」

一応頭を下げながら受け取る。

「それにしても、どうしてこんな面倒なやり方でクラス編成を発表
しているんですか？ 掲示板とかで大きく張り出しちゃえばいいのに」

こうやっていちいち全員に所属クラスを書いた紙を渡すなんて、
面倒なだけだと思うけど。ご丁寧に一枚一枚封筒に入れてあるし。

「普通はそうするんだけどな。まあ、ウチは世界的にも注目されて
いる最先端システムを導入した試験校だからな。この変わったやり
方もその一環ってワケだ」

「ふーん。そういうもんですかね」

適当な相槌を打ちながら封に手をかける。さてさて、僕はどの
クラスになっているんだろう？ 少しドキドキする。

なぜ緊張しているかと言うと、僕の通う文月学園はクラスがAか
らFまであり、二年生以上はAから順に振り分け試験の成績順でク
ラスが決まっていく。頭の良し悪しがわかってしまう。男のプライ

ドにかけて、Fクラスだけは避けたい。

「吉井、今だから言うがな」

「はい、なんですか？」

結構頑丈にのりづけされていて、封筒がうまく開かない。

「俺はお前を去年一年みて、『もしかすると、吉井はバカなんじゃないか？』なんて疑いを抱いていたんだ」

「それは大いなる間違いですね。そんな誤解をしているようじゃ、更に『節穴』なんて渾名をつけられちゃいますよ？」

自分で言うのもなんだけど、一年生の最後にやった振り分け試験は、あまり勉強しなかったのに良い出来だった。テストの結果を見て、きつとバカの疑いどころか、逆に僕のことを見直したに違いない。

「ああ。振り分け試験の結果を見て、先生は自分の間違いに気がついたよ」

「そう言ってもらえると嬉しいですよ」

やっぱりうまく開かないな。仕方ない。上の部分を破くか。

ビツと軽い音を立てて封を切る。中を覗くと、そこには一枚の紙が入っていた。

「喜べ吉井。お前への疑いはなくなった」

折り畳まれた髪を開き、書かれているクラスを確認する。

『吉井明久……Fクラス』

「お前はバカだ」

こうして僕の最低クラスの幕を開けた。

バカテスト 国語

問 以下の意味を持つことわざを答えなさい。

『（１）得意なことでも失敗してしまうこと』

『(2) 悪いことがあつた上に更に悪いことが起きる喩え』

姫路瑞希の答え

『(1) 弘法も筆の誤り』

『(2) 泣きつ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、(2)なら『踏んだり蹴ったり』や『弱り目に祟り目』などがありますね。

土屋康太

『(1) 弘法の川流れ』

教師のコメント

シニールな光景ですね。

吉井明久の答え

『(2) 泣きつ面蹴ったり』

教師のコメント

君は鬼ですか。

新庄涼の答え

『(1) 鉄人も筋肉痛』

『(2) 鉄人の補習終わったのちにまた鉄人の補習』

教師のコメント

それってある種のイジメですよ。西村先生にあとで10枚ぐらい反省文を書いておきなさい

第一卷 プロローグ（後書き）

えっとすみません。この場をかりて謝罪します。
本当にすみません。自重します。（多分）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3609h/>

バカとテストと召喚獣を振り返ろう！！

2010年10月11日21時54分発行